



UNHCR
The UN Refugee Agency

2008年6月10日

難民映画祭
2008年6月20-27日

東京(9日)——第3回難民映画祭が、UNHCR駐日事務所と日本UNHCR協会共催で、「世界難民の日」関連イベントとして、2008年の統一テーマ、「難民—ひとりひとりのドラマ」を掲げ、6月20日から27日まで、都内5か所で開催される。

昨年、延べ7000名の来場を記録し、好評を博した、「日本発」の難民映画祭は、数々の映画祭での賞賛を受けた30本以上の映画作品、ドキュメンタリー、ショートフィルムなどを上映する。

第4回東京アフリカ開発会議(TICADIV)と洞爺湖G8首脳会議など、日本国内で多くの国際問題が議論されるタイミングで、第3回難民映画祭は、アフリカとイラクの状況に焦点を当て、オープニング作品として、アカデミー賞ノミネート作品の「WAR/DANCE(ウォー・ダンス)」を上映する。本作品はウガンダ北部の避難民キャンプで生活する子どもたちが、情熱あふれる音楽や踊りをまとい、ウガンダ音楽祭に果敢にチャレンジするさまを表現する。その他にも国際的にも評価の高い、ドキュメンタリー、フィクション、ショート・フィルムを通して、今もなお、紛争や迫害により故郷を追われた人々の力強さと、希望を紹介する。

いくつかのジャパン・プレミア作品のうち、ベルリン映画祭出展作品「ハート・オブ・ファイヤー」にはエリトリア難民が出演し、アルジェリア生まれの映画監督、ラバ・アメール＝ザイメッシュ氏が今年カンヌ映画祭に出典した最新作品を含めた特別上映も行われる。どの映画作品も、移動を余儀なくされたひとりひとりのドラマを表現する。

会期中、入場無料で、ドイツ文化センター、セルバンテス文化センター、イタリア文化会館、東京日仏学院、NHKみんなの広場ふれあいホール、上映後、質疑応答も予定され、映画制作関係者の来場も期待される。

「難民映画祭」はひとりでも多くの方に、世界にいる3300万人の難民・避難民への理解を高めるため、年間を通して行う取り組みのひとつです。2006年の開始以来、毎回世界のあらゆる地域で生きる人々の希望や失望、そして力強さを描いた映画、ドキュメンタリーを届けている。

緒方貞子元国連難民高等弁務官も難民映画祭へのサポートを表明されている。「難民映画祭は、難民を悲惨なだけの人々ではなく、尊厳と権利のあるひとりの人間として表している。上映される映画を通じて、日本に庇護と保護を求める難民への理解が深まることを望む」

難民映画祭は6月に京都、9月に名古屋、さらには香港、バーレーン、オーストラリア、フランスで上映が予定されている。

本件に関するお問い合わせは、
UNHCR駐日事務所
広報官 守屋由紀 Tel: 03-3499-2011 moriya@unhcr.org
難民映画祭芸術監督 キリル・コニン Tel: 03-3499-2308 konin@unhcr.org
までお問い合わせください。

上映映画のリスト、上映時間、特別イベントに関しては、難民映画祭の特設ホームページをご覧ください：
www.refugeefilm.org

以上

UNHCR 駐日事務所	150-0001	Tel (81 3) 3499 2310
広報室	東京都渋谷区神宮前	Fax (81 3) 3499 2273
	5-53-70	http://www.unhcr.or.jp
	UN ハウス 6 階	

UNHCR の支援活動は皆様のご寄附に支えられています。
ご寄附は UNHCR の公式支援窓口である日本 UNHCR 協会を通じてお願いします。
日本 UNHCR 協会 Tel (81 3)03-3499-2450 Fax (81 3)03-3499-2273
<http://www.japanforunhcr.org>



UNHCR
The UN Refugee Agency

PRESS RELEASE